

株主のみなさまへ

2014年3月期 vol.21

2013年9月第2四半期

2013年3月21日～2013年9月20日



安川情報システム株式会社

福岡県北九州市八幡西区東王子町5番15号 〒806-0037
TEL.093-622-6111(代) FAX.093-622-6121

YASKAWA INFORMATION SYSTEMS Corporation
5-15, Higashioji, Yahatanishi-ku, Kitakyushu, Fukuoka 806-0037, JAPAN
PHONE. +81-93-622-6111 FAX. +81-93-622-6121

連結業績ハイライト

- 当第2四半期連結累計期間における情報サービス業界では、通信分野向けのソフトウェア開発等は好調を維持しております。また、景況感の改善に伴い、金融や製造業等におけるIT関連投資も緩やかな回復基調にあります。一方で市場競争は激化しており、価格水準も依然として厳しい状況にあります。
- このような状況の中で、当社グループは2013年度から2015年度までの中期経営計画「Renaissance21 (ルネッサンス21)」を策定いたしました。そのスタートの年として、事業構造改革に基づく戦略事業の強力な推進とコスト構造改革の仕上げにより事業基盤を固め、成長プランが確実なものとなるように努めております。
- 当第2四半期業績は売上高はほぼ計画どおりでしたが、収益面で大型案件におけるコストの大幅な悪化により赤字となりました。
- この結果を勘案し、誠に遺憾ではありますが、中間配当金につきましては無配とさせていただきます。

科目 (単位: 百万円)	2013年第2四半期	2012年第2四半期	2013年3月期
受注高	7,220	7,383	13,940
売上高	6,316	6,423	12,862
営業利益	△79	40	87
経常利益	△74	80	159
四半期・当期純利益	△65	57	92
1株当たり四半期・当期純利益: 円	△3.63	3.18	5.14
純資産額	3,061	3,070	3,118
総資産額	8,747	9,292	8,907
1株当たり純資産額: 円	169.40	169.79	172.49
自己資本比率: %	34.9	32.9	34.9
自己資本四半期・当期純利益率 (ROE): %	△2.1	1.9	3.0

(注) △は損失を示します。

目次

ごあいさつ	1	四半期連結決算報告	9
過去5力年の業績推移	2	会社プロフィール	12
事業別の概況	4	株主情報	13
成長事業のご紹介	5		

ごあいさつ

株主のみなさまには、平素より格別のご高配を賜り、誠にありがとうございます。

さて、2013年度上期は当社の属する情報サービス業界では、スマートフォンやモバイル端末の普及、それを支える通信網や通信サービスの拡充により、「モビリティ」「クラウド」「SNS」「ビッグデータ」を活用した商品やサービス等にビジネスはシフトしてきております。また、ますます激しくなるグローバル競争下において国内企業の海外進出は拡大しており、そうした企業に帯同するようにIT技術やサービスもグローバル化が進んでおります。更に、国内においては環境・エネルギー問題や高齢化社会の医療費・介護保険問題、徴税と社会保障給付の効率化に対して、IT活用を推進する政策等も図られています。

こうした動きと景況感の改善が相まって、市場も底を打ち、緩やかに回復はしてきております。しかし、全体としては低成長であることから、依然として厳しい競争を強いられております。

当社グループは、市場や技術のめまぐるしい変化に対して、組織や人材がスピーディに適応できる力を持つことが最重要課題と考えており、2013年度から2015年度までの中期経営計画「Renaissance21 (ルネッサンス21)」を策定しました。そのスタートの年として事業構造改革に基づく戦略事業の強力な推進とコスト構造改革の仕上げにより事業基盤を固め、成長プランが確実なものとなるように努めております。

具体的な取り組みとして、M2M、環境・エネルギー、ヘルスケア等の新規・成長分野への事業展開を狙い、お客様へ精力的な提案を行うことで、その成果も現れ始めております。また、環境変化に適応し、事業成長・拡大を下支えする人材を育成・活用するための環境・仕組みを整備し、成長を強力に推進しております。そして、収益を確保するためのコスト構造改革プランを着実に実行するとともに、業務効率向上等の業務構造改革を進めております。

以上のような取り組みを実施し、計画どおりに成果も現れつつあります。収益面では、新規ビジネス拡大を



代表取締役社長 清水 喜文

狙いとして取り組んでいる大型プロジェクトにおいて大幅なコスト増となり、その影響で上期業績に赤字損失を計上することとなりました。株主のみなさまには、大変なご心配とご迷惑をおかけし、深くお詫び申し上げます。

下期は、当社グループの成長性と収益性の視点から、上期の課題や反省を踏まえ、2013年度の活動方針を一層強化し、取り組んでまいります。

具体的には、好調市場や新規・成長事業に対しては、選択と集中による効率化とスピードアップにより、受注の確保・拡大を進めてまいります。また、環境変化を察知し自ら考え、行動できる人材を育成し、そうした人材が中核的存在として組織を活性化できる環境づくりに努めてまいります。コスト構造改革や業務構造改革の取り組みにおいては、課題を分析・整理し、スピードをあげて改善を実行し、改革の効果を高めてまいります。

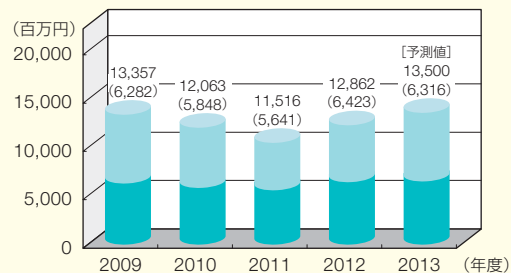
最後に、上期に赤字の原因となりました大型プロジェクトで培った技術を新規ビジネスにつながるように全社をあげて取り組んでまいります。

株主のみなさまにおかれましては、今後ともご指導、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

過去5年の業績推移

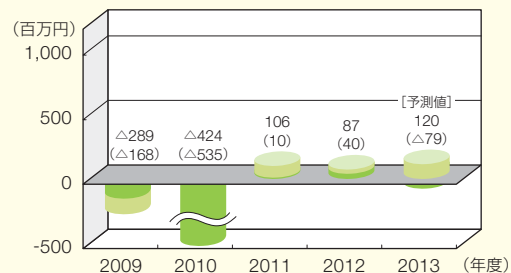
売上高

売上高
(うち第2四半期累計)



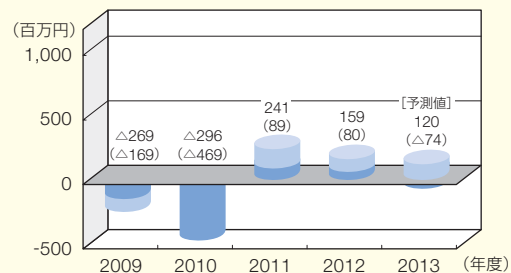
営業損益

営業損益
(うち第2四半期累計)



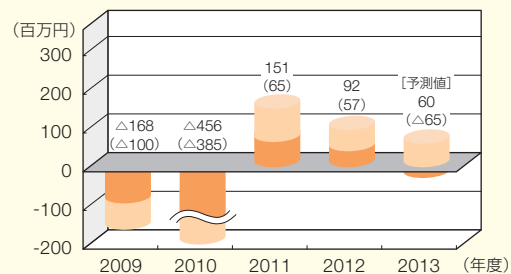
経常損益

経常損益
(うち第2四半期累計)



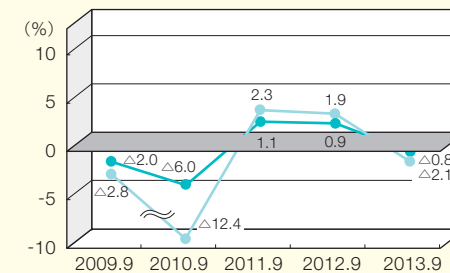
当期純損益

当期純損益
(うち第2四半期累計)



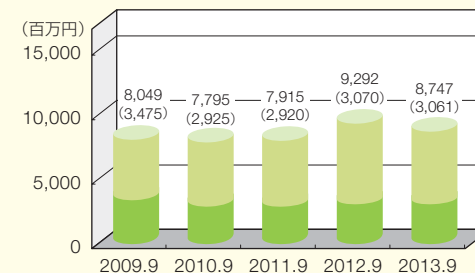
収益性

自己資本四半期純利益率
総資本経常利益率



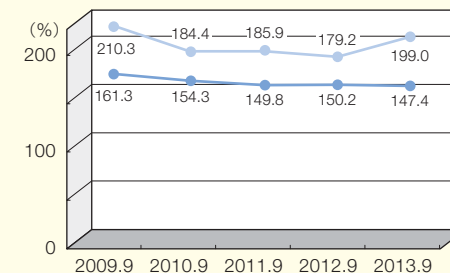
資産状況

総資産
(うち純資産)



安定性 (流動比率・当座比率)

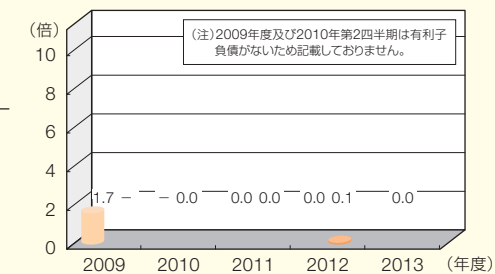
流動比率
当座比率



キャッシュ・フロー 対有利子負債比率 (倍)

有利子負債 / 営業活動によるキャッシュ・フロー

第2四半期 年度



事業別の概況

事業(単位:百万円)	2013年9月第2四半期	2012年9月第2四半期	2013年3月期
ビジネス・ソリューション事業	2,404	2,395	4,873
組込制御ソリューション事業	2,739	2,236	5,330
医療・公益ソリューション事業	1,172	1,791	2,657
連結売上高合計	6,316	6,423	12,862

当社グループは今年度から、従来の「プロダクト事業」のうち、情報通信機器の提供を「組込制御ソリューション事業」に、インターネット・セキュリティ関連製品の提供を「医療・公益ソリューション事業」に統合し、「ビジネス・ソリューション事業」「組込制御ソリューション事業」「医療・公益ソリューション事業」の3事業に再編し、事業区分を変更しました。

なお、前年同四半期との比較に関する事項は、前年同四半期の数値を変更後の事業部門に組み替えて比較しております。

ビジネス・ソリューション事業

当事業では、移動体通信事業者向けシステム構築や自動車等の製造業向けビジネスソリューションは低調でした。また、企業向けシステム基盤構築においては案件一巡等により減少しましたが、非製造業向けシステム開発案件の売上もあり、安川電機グループのITインフラ整備・更新も継続的に需要がありました。

その結果、売上高は24億4百万円(前年同四半期比0.4%増)となりました。

組込制御ソリューション事業

当事業では、倉庫物流システムは低調でしたが、設備投資の持ち直しを背景にメカトロ機器向け組込ソフトは改善しました。また、医療機器向け組込ソフトは堅調に推移し、M2M(Machine to Machine)分野向けのシステム構築や情報機器販売が増加しました。

その結果、売上高は27億39百万円(前年同四半期比22.5%増)となりました。

医療・公益ソリューション事業

当事業では、健康保険者向け大規模システム構築の新規売上があり、医療機関向けソリューションサービスも堅調に推移しました。しかしながら、自治体向け情報通信基盤構築は案件一巡により大幅に減少し、インターネット・セキュリティ関連製品の売上も前年同期に比べ減少しました。

その結果、売上高は11億72百万円(前年同四半期比34.6%減)となりました。

成長事業のご紹介

当社は、前中期経営計画「Renovate21(革新21)」で芽生えた新たなビジネスを新中期経営計画「Renaissance21(再生21)」で大きく育ててまいります。

環境エネルギー分野

環境エネルギー分野では、前年度までに発電量の見える化に役立つシステム(EneSight Viewer)やビルのエネルギー管理システム(EneSight for BEMS)をリリースしました。今後は、更にエネルギー消費の多い工場の生産ライン向けシステム(FEMS)の商品化を進め、事業を拡大してまいります。

■ 工場のニーズ

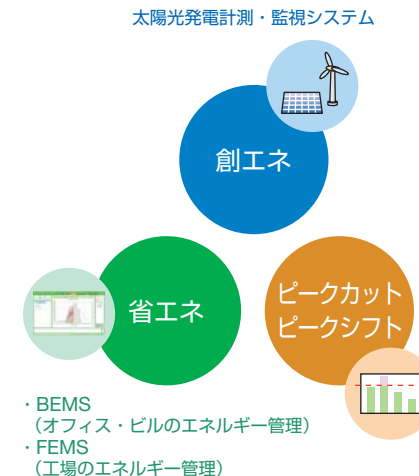
工場の生産ラインは、ロボットや製造装置、ベルトコンベヤによる自動化が進んでおり、多くの電力を消費します。昨今の電気料金の値上げや節電要請もあり、こうした動きは製品単価や生産量、最終的には売上にも影響がでるため、工場の多くは電力使用量や機械の消費電力、電気代に高い関心があります。

また、CSR活動の一環として企業のイメージアップを図るために省エネを推進するといった動きも根強くあります。

■ 当社の強み

当社はこうした工場のニーズに対して、以下の強みを活かし、省エネ、電力使用のピークカットを実現してまいります。

- ・創エネ・省エネの見える化など、コアとなる製品・技術(EneSight for BEMS、EneSight Viewer)
- ・地元自治体での実証による技術と先行事例
- ・産業用電機システムのエンジニアリング技術、アプリケーション・ノウハウを持つ安川電機グループとの協業体制



医療分野

● 医療SI、医療費適正化ソリューション

高齢化社会を迎え、医療サービスの質の向上が求められております。また、膨らむ医療費の削減・適正化も国家的な課題です。

当社は30年にわたる病院システム開発の経験を活かし、将来に向けた医療の仕組みづくりをITで支援するとともに、医療費を負担する健康保険組合や自治体等に医療費適正化ソリューションを提供してまいります。

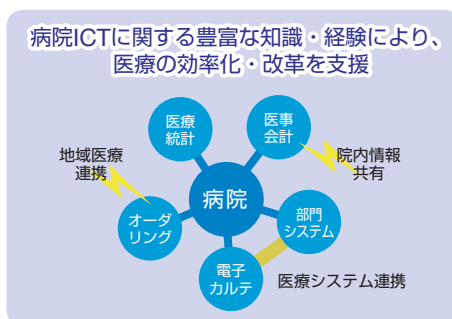
■ 市場のニーズ

- ・ 医療技術や治療方法が進化する一方で、高齢化社会を迎え、患者数が増加しています。地域医療連携の推進が求められるとともに、中核病院とその他の医療機関との間においてITを活用した情報連携が求められています。
- ・ 個々の病院においても、医療の質の向上や病院経営や院内業務の効率化のため、IT技術活用へのニーズがあります。
- ・ 患者の増加に伴い、過誤請求や不正請求の防止、ジェネリック医薬品への切り替え等による医療費削減へのニーズが高まっています。それとともに、健康増進等の疾病予防や重篤化の未然防止による医療費増加抑制も求められています。

■ 当社の強み

当社はこうした市場のニーズに対して、以下の強みを活かし、IT化の支援やソリューションの提供を行ってまいります。

- ・ 30年にわたる医療SIの経験と実績
- ・ 最適な医療連携、医療経営・業務効率化、経費削減策を提案できる豊富な医療システム知識
- ・ レセプトや電子カルテなど、医療情報データに関するノウハウ
- ・ これまでに構築してきた医療業界や医療システムメーカーとの協力、連携体制
- ・ 地元自治体での実証企画機会等を通じて洗練された技術やノウハウ



● 医療機器向けITシステム

医療の質の向上や医療費の適正化の一環として拡大する医療機器市場ですが、特に日本のメーカーでは、グローバル化とITシステムによる競争力強化が経営課題となっています。

当社は、経験と実績から得たノウハウと得意技術を活かし、こうしたお客様のITパートナーとして、ビジネスの拡大に努めてまいります。

■ 市場のニーズ

- ・ 地域医療連携や医療の質の向上、医療費の適正化の一環として、医療機器と医療サービスの連動、一体化が求められています。
- ・ 国内医療機器メーカーは、海外市場への進出による事業拡大、国内外において激化する市場競争において高度化や差別化が求められています。

■ 当社の強み

当社はこうした市場のニーズに対して、これまで様々な事業で培ってきた以下の強みを活かし、医療機器メーカーへITによる事業強化支援を行ってまいります。

- ・ 医療機器組込開発の経験と実績
- ・ 先進的なメカトロ制御技術
- ・ M2Mによる医療機器のグローバル監視
- ・ 医療システムや医療費適正化ソリューションでの経験と実績



成長事業のご紹介

情報通信(M2M)分野

グローバル化が進み、海外に出荷した製品に対する日本メーカの監視ニーズが高まっています。市場で先行しつつある通信アダプタ(MMLinkシリーズ)に加え、アプリケーションパッケージの提供を強化し、事業を拡大してまいります。

■ 市場のニーズ

「現場の見える化」「マーケティング分析」「予防保全・傾向分析」など、製品のライフサイクルを通じて、海外に出荷した製品の状況を把握したいというニーズが強くなっています。

■ 当社の強み

当社はこうした市場のニーズに対して、以下の強みを活かし、省エネ、電力使用のピークカットを実現してまいります。

- ・ 他社に先駆け提供している海外通信アダプタ(MMLink-G)等のグローバルM2Mインフラ
- ・ 中国を含む世界44か国で認証を取得しているグローバル通信アダプタ(MMLink-G)
- ・ 日本国内における受託による遠隔監視システムの開発実績・経験
- ・ 安川電機やその他メーカ等、海外実績が豊富な顧客でのシステム開発経験により蓄積されたノウハウ

トピックス 2013 Japan IT Week 春「第2回ワイヤレスM2M展」に出展

2013年5月8日～5月10日東京ビッグサイトにおいて、日本最大のIT専門展「2013 Japan IT Week 春」が催されました。その1つとしてM2Mの専門展「ワイヤレスM2M展」が開催され、M2Mシステムを構築するワイヤレス通信技術やセンサのほか、様々なアプリケーションが集結しました。

当社は右記の製品を展示し、来場されたお客様へ当社のソリューションの紹介や提案を行い、アピールすることができました。

展示品

- ・ グローバルM2Mサービス「モノモバイルソリューション」
- ・ グローバル通信アダプタ「MMLink-G」
- ・ 国内向け通信アダプタ「MMLink-1X」
- ・ ビル向けエネルギー監視システム「EneSight for BEMS」



四半期連結決算報告

(四半期連結貸借対照表)

■ 四半期連結貸借対照表(平成25年9月20日現在)

(単位:百万円)		(単位:百万円)	
資産の部	金額	負債の部	金額
流動資産	5,725	流動負債	2,878
現金及び預金	1,783	支払手形及び買掛金	744
受取手形及び売掛金	2,457	未払費用	971
商品及び製品	40	未払法人税等	25
仕掛品	879	役員賞与引当金	0
原材料及び貯蔵品	11	その他	1,135
その他	556	固定負債	2,807
貸倒引当金	△1	退職給付引当金	2,320
固定資産	3,021	役員退職慰労引当金	25
有形固定資産	677	その他	461
無形固定資産	119	負債合計	5,685
投資その他の資産	2,224	純資産の部	金額
前払年金費用	1,588	株主資本	3,008
その他	636	資本金	664
資産合計	8,747	資本剰余金	318
		利益剰余金	2,026
		自己株式	△0
		その他の包括利益累計額	41
		その他有価証券評価差額金	41
		少数株主持分	12
		純資産合計	3,061
		負債純資産合計	8,747

四半期連結決算報告

(四半期連結損益計算書・四半期連結キャッシュ・フロー計算書)

■ 四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間(自平成25年3月21日 至平成25年9月20日)

(単位：百万円)

	金額
売上高	6,316
売上原価	5,275
売上総利益	1,041
販売費及び一般管理費	1,120
営業損失(△)	△79
営業外収益	
受取利息	0
受取配当金	0
雇用助成金・奨励金	5
その他	1
営業外収益合計	7
営業外費用	
支払利息	0
売上債権売却損	1
売上割引	0
その他	0
営業外費用合計	2
経常損失(△)	△74

(単位：百万円)

	金額
特別損失	
固定資産除却損	3
特別損失合計	3
税金等調整前四半期純損失(△)	△78
法人税、住民税及び事業税	12
法人税等調整額	△24
法人税等合計	△12
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△65
少数株主損失(△)	△0
四半期純損失(△)	△65

■ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書(自平成25年3月21日 至平成25年9月20日)

(単位：百万円)

	金額
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純損失(△)	△78
減価償却費	58
貸倒引当金の増減額(△は減少)	0
前払年金費用の増減額(△は増加)	86
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△0
退職給付引当金の増減額(△は減少)	55
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	3
受取利息及び受取配当金	△1
支払利息	0
固定資産除却損	3
売上債権の増減額(△は増加)	470
たな卸資産の増減額(△は増加)	△256
仕入債務の増減額(△は減少)	383
未払金の増減額(△は減少)	△152
未払費用の増減額(△は減少)	△47
長期未払金の増減額(△は減少)	△175
その他	24
小計	373
利息及び配当金の受取額	1
利息の支払額	△0
法人税等の支払額	△123
法人税等の還付額	0
営業活動によるキャッシュ・フロー	252

(単位：百万円)

	金額
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△14
無形固定資産の取得による支出	△15
投資有価証券の取得による支出	△0
その他	18
投資活動によるキャッシュ・フロー	△11
財務活動によるキャッシュ・フロー	
ファイナンスリース債務の返済による支出	△0
少数株主への配当金の支払額	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	239
現金及び現金同等物の期首残高	1,543
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,783

会社プロフィール

会社概要 (2013年9月20日現在)

商号 : 安川情報システム株式会社
 本社所在地 : 福岡県北九州市八幡西区
 東王子町5番15号 〒806-0037
 設立年月日 : 1978年2月1日
 資本金 : 664百万円
 従業員数 : 515名
 主な事業 : ビジネス・ソリューション事業
 組込制御ソリューション事業
 医療・公益ソリューション事業
 連結子会社 : 株式会社 安川情報九州
 安川情報エンベデッド株式会社

役員 (2013年9月20日現在)

代表取締役社長	清水 喜文
取締役 執行役員	石田 聡子
取締役 執行役員	久野 弘道
社外取締役	小笠原 浩
社外取締役	乙部 則重
監査役(常勤)	実松 敏文
社外監査役	平山 雅之
社外監査役	藤岡 敬正
常務執行役員	川畑 洋志
常務執行役員	城戸 重信
執行役員	三輪 雅志

当社のホームページ



当社のIRページ



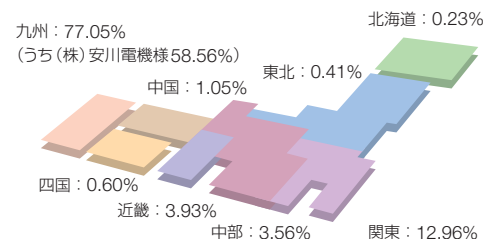
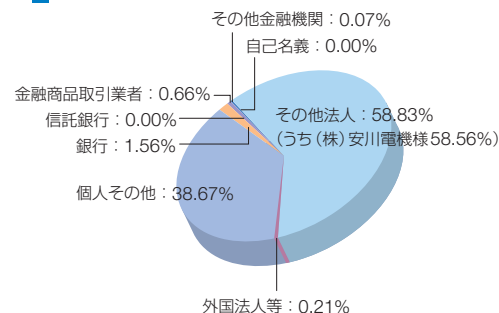
<http://www.ysknet.co.jp>

株主情報

株式の状況 (2013年9月20日現在)

株式の総数 : 64,000,000株
 発行済株式の総数 : 18,000,000株
 株主数 : 3,401名

株式数の分布状況 (2013年9月20日現在)



株主メモ

事業年度	3月21日～翌年3月20日
期末配当金受領株主 確定日	3月20日
中間配当金受領株主 確定日	9月20日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂7丁目10番11号 0120-232-711 (通話料無料)
上場取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.ysknet.co.jp (ただし、電子公告によることが出来ない 事故、その他のやむを得ない事由が生じた ときは、日本経済新聞に公告いたします。)

<お知らせ>

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。
なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本店でお支払いいたします。